



# ほんじつ ～本日のおすすめの本②6～

## 『イルカのKちゃん』



たぐちしゅういち ドルフィン クラブ ぶん きょういっくつぽん ねんしよはん  
田口周一+DOLPHIN CLUB 文 教育出版(2004年初版)

\*この本は E(絵本)の書棚にあります。(貸出可能)



SDGs「14:海の豊かさを守ろう」の導入として、全学年に紹介している絵本です。

実際にあったことを元に、二度とこのようなことが起こらないようにとの願いを込めて作られたそうです。(「学校図書館だより」でも紹介しています。)

ぜひ、ご家族で、親子の絆や命の尊さについて、真剣に考える1冊として、読んでみてください。

イルカのKちゃんは、とてもひとなつこい性格です。そして、好奇心いっぱいです。まるで、人間の子どものようなのです。

人間と海藻キャッチボールをしようしたり、タコをつついてすみをふきかけられたり…。おそらく、人間が捨てた釣り糸も、なにか楽しいおもちゃだと思って遊んでいたのかもしれませんが。

釣り糸は、Kちゃんの尾びれに絡まり、取れなくなります。Kちゃんは、尾びれに釣り糸を絡ませたまま、冬の海を過ごすことになります。

「ぼく」がKちゃんに再会したとき、Kちゃんの尾びれに絡まった釣り糸は、取れてはいませんでした。それどころか、尾びれに深くくい込み、海藻までが絡みついていました。

イルカは私たちと同じ「哺乳類」です。生まれてすぐにお母さんのお乳を飲んで成長します。そして、海面に上がって、呼吸をしなくてはなりません。尾びれが傷つくと、イルカはどうなるのでしょうか？どんなに泳ぎがとくいなイルカでも、やがては泳げなくなるのです。

「だれが捨てたんだ、こんなもの」という言葉が本の中にできます。そう、捨てたのは私たち人間です。

命の尊さ、親が子どもを思う気持ちは、人間もイルカも同じです。本を通して、深く人の心に語りかけてくる貴重な絵本の一つです。大切な命を守るために自分にできることは何かを考えてみましょう。

ぜんがくねんだいしょう  
全学年対象

イルカに関する本は、4番

の書棚にもあるよ！！

